

1982
2.7-8

雨ヶ立 ツア-入門

11-ター 総括
陶山 泰

82/2/6 快晴 雨ヶ立 往復

登りは、途中 211-ターに分れ別ルートをとったり
トツポとラストの間が 開きすぎたり、パーテ-行動
としてはバラバラで、リーダ-の統率力に問題が
あった。視界が良く、目的地も近かったので、特に
事故が起きるとは思えないが、ツア-訓練というこ
とを考えると ますかたように思う。下りは 菅沼さん
のケガがあったものの わりにままとまっていた。

82/2/7 ガス、風強し。 ツア-技術訓練

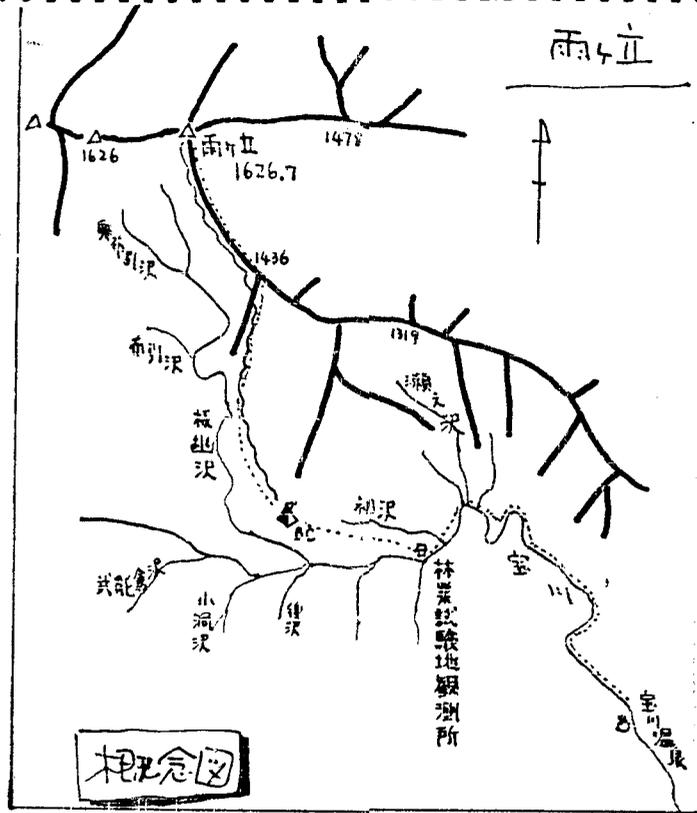
昨夜来の雪で、新雪が 50cm 程積っている。
特に 目的地を定めず、個々の登行技術の講習
を 多く 吹雪の中を出発した。直登行、斜登行
電光型登行、キックタ-ン、新雪ラッセル、急斜面の
トラバ-スを ひとつとやった。今回の講習だけ
で 技術が身につくことは ありえないので、今後の
山行の中で、実践的に 技術を身につけるように
して欲しい。

82/2/6 水上 6:10 ~ 宝川温泉 7:00/7:20 ~
B.C.(950m) 9:00/10:00 ~ 1190m 10:40/10:55 ~
1436m 稜線 11:30/11:45 ~ 雨ヶ立 12:40/13:15 ~
B.C. 14:30

82/2/7 B.C. 7:15 ~ 1100m 8:20/8:40 ~
B.C. 9:15/9:45 ~ 宝川温泉 11:35/13:00 ~ 水上 15:30

参加者

小保方、川口敏、今野、白沢、菅沼、陶山、高野、
角田、遠山、針谷、藤原、古川 以上 12名



第7回総会

新橋福
'82年6月20日 社会館
P.M. 1:00 ~ 5:00

上記の通り第7回定期総会を開催致しま
す。当日は重要な議題がたくさんあります。
ぜひご出席下さい。

尚、総会についての意見希望等がありま
したら運営委員会宛お知らせ下さい。

午前中はハミリスライド等を行います。

湯檜曾川源流

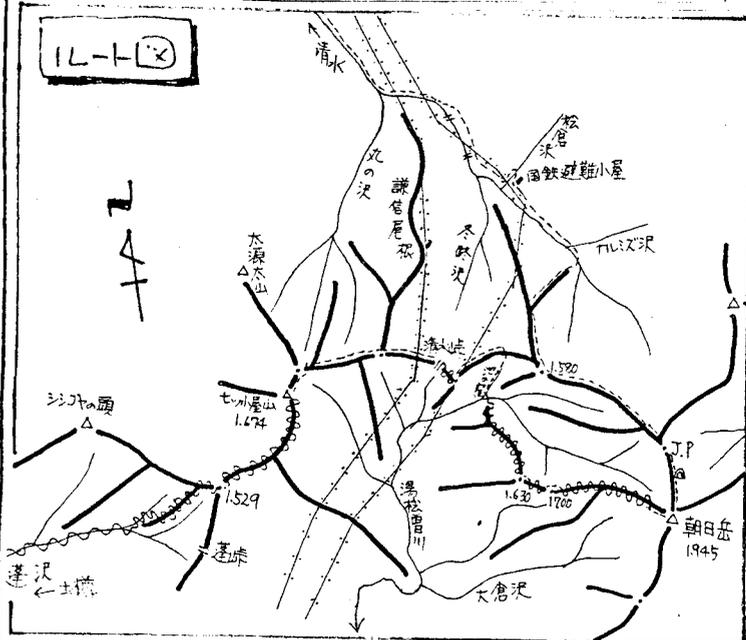
1982
3.13-
3.14

朝日岳西尾根?

小森宮秀昭

朝、7クシーで清水まで入る。とんより曇って雨もポツリ
ポツリと落ちて来て、どうも芳しくない天気だ。今回の
メンバーは、菅沼氏、陶山氏、坂井OB それに私の4人だけ
になってしまった。清水から登川沿いは、雪上車が東屋沢
辺まで入っていたので、その踏跡を、去年のように何度も丸木橋
を渡る事もなく快調に進む。チルミズ沢向かい側の、夏
道記号の尾根通りにとどつく。風邪をひいている筈の坂井氏
が快調に直登して行くのにはマイッタ。1300m 辺りから
ガスに包まれてしまい、視界20m位の所を、コンパスと
高度計を頼りに朝日岳への稜線をシールで登るが、
登り本とは言え、あまりいい感じではない。1800m 辺り
からアイスバーンになり、アイゼンにはきかえる。天気が
良ければ、朝日岳から湯檜曾川を經由して、清水峠まで
行くつもりもあったが、このガスの中では、どうしようも無く、
結局、ここがジャンクションピークだろうという稜線の端で
風も結構あるし、雪も降り始めた事だし、雪洞にしようという
提案が出て、アライに顔をたたかれて、イテ... と連発しな
がら雪洞を掘る。2時間程で4人用のものが出来た。
明日も天気が悪かったらアイゼンはいって、このまま引返し
だんとかあまり芳しい話にならない。それでも穴の中に入
ってしまえば、ツェルトと違って落着けるので、良く眠れる。
翌朝、起きてみると雲一つ無い快晴だ。結構冷込
んでいるし、アイスバーンが心配でも有るという事で、ゆくり
朝食をとる。外に出て周りを見渡すと、上越の山々、
粟利根の山並等、今迄踏んで来たコースがあちこち見渡

これ、ひとしきり山岳展望を堪能する。8:00近くになってから、朝日岳へ出発する。朝日岳からはスキーを着けてはいよいよ滑降開始。湯檜曾川本谷の左岸の尾根を、アイスバーンにエッジでカリカリ者を立てながら滑り出す。



このコースは、去年七ツ小屋山から丸の沢と一緒に滑った時に、菅沼代が目をつけていたものだ。本谷を滑るというプランもあったが、斜面はこの所の雨のためか、堅く凍って、更にブッシュも顔を出して、今回は、とてもスキー向きの条件ではないので、やはりこの西尾根コースをとる。しかし、ザラザラと細かい凹凸があり、斜度も比較的緩いとは言え、アイスバーンを滑るのは気持ちのいいものではない。1800m辺り、陶山代が30m程滑落して、ブッシュの所の新雪で止まったが、冷汗をかく。この先、どうなるのか心配になったが、1700m辺りからは一転してまったく、スキーのためにあるような滑り良い雪となり、池の窪沢出谷の1400m辺りまでの広い尾根を思いへのシブールを描きながらスツとはす。沢の中で一息入れて周りを見渡すと、抜けるような青空をバックに、ブナの木の新緑の白のコントラストが、なんとも言えず

きれいだ。振り返ると、今、自分達だけがつけてきたシブールが残っている。まさに山スキーをやっている本当に良かったと実感する瞬間だ。なんだか今回参加できなかった人には申し訳なくなるような、最高の気分だ。シールをつけ池の窪沢をつめ清水峠を聖由して七ツ小屋山へ向う。七ツ小屋山々頂からも、今度はザラメのような雪が滑り易い言う事無し。蓬峠手前の1544mのジャンクションの小ピークから、シゴヤノ頭寄りの最初の枝尾根を蓬沢へ滑り込む。この斜面も文句ない雪で、蓬沢まで一気に滑り降りる。まさに痛快そのもの。お互い顔を見合わせて思わず顔がほころぶ。これだからヤメラレ無いのデス。これが蓬沢の本流に入る所で、途端にザラザラの湿雪に変わってしまったのだから、山の雪は全くわからない。ここで七ツ小屋山から踏跡のあった3入パーティに出会う。

蓬沢はまったくの湿雪で、ヒェ曲がらネーとか、リヤトップ開きが有効であるとかないとか、わめき合いながらどんどん滑り降りる。途中、枝沢から相当大きなデブツが出てくるが、結局スキーをつけて快調に630mの所の橋迄、滑る事ができた。ここからスキーをかついで土樽駅までは、ほんの10分程だ。15:01迄の鈍行を待つ間、ホームでシラフからコンロから、荷物を全部広げて、虫干しをする。もう陽差しもすっかり春らしくなった感じである。今回、後半は、予想に反して、良い天気と良い雪にめぐまれ、まさに山スキーの痛快さを満喫できた一日であった。

☆ < 3/13 > 土樽 6:00 清水 6:25/50
 九ツ沢出合 10:00 H1040m - H1330m 10:50
 /11:20 - H1580m 稜線 12:00/10 - H1800m
 アゼン着ける 13:15/25 - H1950m J.PEAK - H1940m
 14:18 (雪洞 14:30~16:45)

高津倉山 1982 3.7



'82.3.6 高津倉山 大倉沢下り 田中健 撮影 by Suganuma

高津倉山行に参加して 田中 健

1. 初めてのスキー・ツアーでした。3回シールをつけて登り、2回滑りました。楽しむことができました。
2. 天候に恵まれ、上越の3月の雪とは、思われない程いい雪でした。新雪しかありません。
3. 今回は、後3をついて歩いたのですが、はやく、自分でモルトをとりながら行けるようになりたいものだと切に思っています。

☆ < 3/14 > 05:00/7:55 - 朝日山頂 8:05/20 -
 - スキー着る 8:25/40 - OH1630m 9:10/30 -
 - H1400m 池の窪沢出谷 9:45/10:05 - 清水峠
 10:35/45 - H1675m 七ツ小屋山 11:35/50 - H1544m
 J.P 12:05/25 - H960m 蓬沢 12:45 - H630m 橋
 :30/55 - 土樽駅 14:05/15:01 - 高崎 16:33/45
 - 上野 18:46

820414
3
570002